



KONICA MINOLTA

News Release

「日経SDGs経営大賞 大賞」を受賞 ～SDGsから逆算思考で新たな事業を創出する～

2019年12月13日

コニカミノルタ株式会社（本社：東京都千代田区、社長：山名 昌衛、以下 コニカミノルタ）は「日経 SDGs 経営大賞 大賞」を受賞しましたので、お知らせします。

「日経SDGs経営大賞」は、日本経済新聞社が今年初めて実施した「第1回 日経SDGs経営調査」の結果に基づき、外部審査委員会が企業の取り組みや戦略を総合的に審査して、「SDGs経営に積極的に取り組み、企業価値向上につなげている先進企業」を選出したものです。

今回は 637 社が調査に参加し、大賞 1 社、SDGs 戦略・経済価値賞、社会価値賞、環境価値賞 各 1 社が選ばれました。



日経 SDGs 経営大賞

【 コニカミノルタの「SDGs戦略」 】

現在、コニカミノルタは、最先端の技術を積極的に取り込み、強みとするデジタル入出力の技術と融合させることで、社会課題の解決に寄与するソリューションを生み出す「課題提起型デジタルカンパニー」への業容転換を進めています。

すでに顕在化した課題解決だけでなく、潜在的な課題を提起し、お客様とともにその解をつくっていくことで、人間社会の進化に貢献していく企業こそが、これからの時代のサステナブル（持続可能）な企業であると、コニカミノルタは考えています。そこで、数十年先のあるべき未来像を描き、逆算思考で「今、何を成すべきか？」を明確にして潜在的な課題を提起し、新たな事業を生み出すことで、SDGs の実現に向けた価値創造にグループ全体で取り組んでいます。

今回の受賞は、このようなコニカミノルタの考え方が SDGs 経営に合致しており、今までに進めてきた様々な取り組みの成果が評価されたものと考えています。

【 社会価値創造の事例 】

1. ケアサポートソリューションで「つながる介護」

近年、日本の社会では要介護者の増加にともなって介護人材の不足が社会問題となっています。これに対し、コニカミノルタは介護ワークフローを変革するケアサポートソリューションを開発、販売しています。このソリューションは、天井に設置した近赤外線カメラと微小な動きを感知するセンサーを通じて入居者の行動を認識し、介護スタッフが持つスマートフォンに通知するというものです。介護スタッフは状況を把握してから対応方法を判断できるほか、スタッフ間での情報共有もリアルタイムにできるなど、大幅な業務の効率化を実現しています。また、介護現場ではこのようなICT機器の定着が難しいという課題も抱えています。この課題に対し、介護現場でデータを分析活用し運用する「ケアディレクター」



の育成支援も行っています。

今後は施設のみならず、介護事業者やITサービス企業などと連携して互いにデータを共有、相互連携、分析することで新たな価値創造し、「つながる介護」で、在宅領域でも施設と同じケアを受けられる仕掛けをつくりたいと考えています。

2. 新興国の医療課題に「遠隔診療」で応える

バングラデシュでは、急増する生活習慣病への対応が重要な医療課題となっています。しかし、国民の6割強が住む農村部では十分な医療施設・設備、医師も存在しておらず、医療を受けるために遠くの都市部まで通わなければなりません。

そこでコニカミノルタは、ポータブル医療デバイスを使って地方の診療所で撮影したX線画像をクラウドに送り、都市部の医師が診断する遠隔健診システムを立案しました。2017年の健診パイロットを経て、翌年9月から首都ダッカと周辺地域でJICA（国際協力機構）に採択されたプロジェクトとして有料健診の試行を開始しています。今後、健診拠点を増やすとともに、収集データの解析とAIによるスクリーニングで、より安価な健診サービスの実現を目指しています。



【 環境価値創造の事例 】

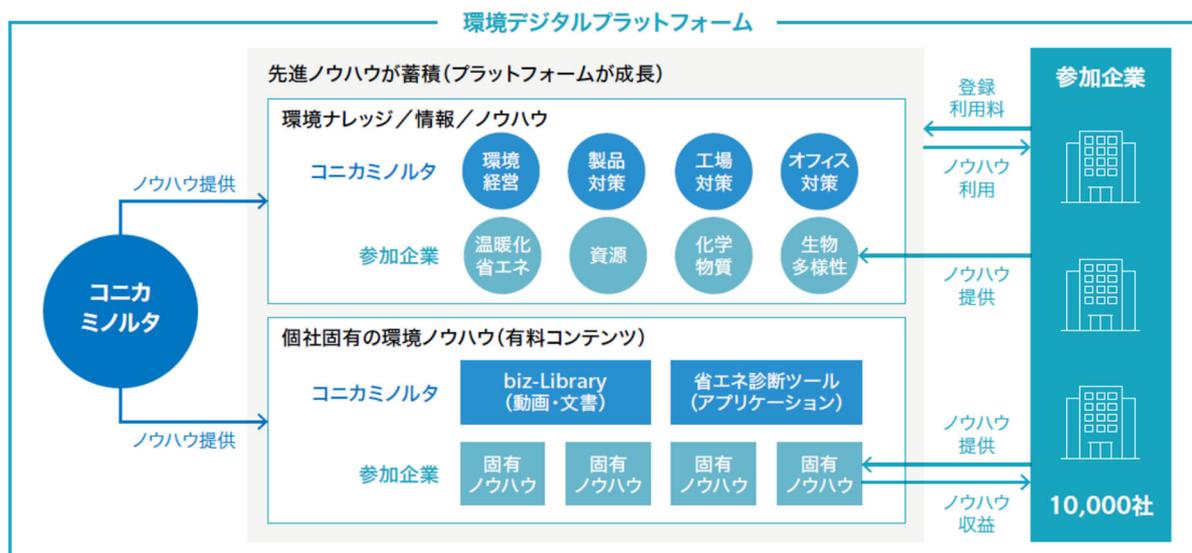
1. グリーンサプライヤー活動

コニカミノルタは、グリーンファクトリー活動で培ってきた環境技術・ノウハウをお取引先に提供することで、環境負荷低減とコストダウンを同時に実現する「グリーンサプライヤー活動」を推進しています。この活動は、コニカミノルタの環境専門家がお取引先の生産拠点を訪問し、コストダウン効果や投資の必要性を含めた改善提案を実施し、お取引先と協働で環境負荷低減活動を進めるものです。



2. 環境デジタルプラットフォームの構築

コニカミノルタは、環境経営支援コンテンツbiz-Library（ビズライブラリー）や、省エネ診断ツールなど、環境ノウハウをデジタル化して多くの企業へ提供してきました。今後、コニカミノルタ以外の企業が持つ環境ナレッジをもお互いに共有し、新たな価値を共創していく場として「環境デジタルプラットフォーム」を構想中です。これに、自社だけでなく参加企業にも環境ノウハウを蓄積してもらうことで、プラットフォームを成長させ、環境問題の解決を飛躍的に大きくすることができると考えています。



【 コニカミノルタの「コーポレートガバナンス」 】

コニカミノルタは、2003年の経営統合時に「委員会等設置会社」（現「指名委員会等設置会社」）を選択し、指名・監査・報酬の三委員会を設置、独立社外取締役は取締役総数の3分の1以上、取締役会議長は執行役を兼務しない取締役から選定、業務の決定を執行役に大幅に委任するなど、経営の監督と執行の分離と取締役会の監督機能の確保を図ることにより、当社の中長期的な企業価値の向上に資するガバナンスシステムを追求してきました。

近年も、執行役の報酬改定においては、長期インセンティブとして「中期業績連動株式報酬」の導入、クローバック条項の織り込みなど、経営の透明性・健全性・効率性の向上のための施策を進めています。

このたびの受賞を励みに、「ビジネス社会・人間社会の進化の為に新たな価値を創造し続ける企業」を目指して、今後もSDGsの実現に向けた価値創造にグループ全体で取り組んでまいります。

■ 日経SDGs経営調査について

日経SDGs経営調査は、「SDGsを経営と結びつけることで、事業を通じて社会・経済・環境の課題解決に取り組み、企業価値向上につなげている企業」であるかどうかを、企業の「経済価値」「社会価値」「環境価値」の3つの柱に「ガバナンス」を加えた計4項目における設問の回答内容から総合的に評価するものです。



日経SDGs経営調査の4項目と評価指標

(2019年12月2日の日経産業新聞を参考とした)

SDGs 戦略・経済価値 (5 指標)	方針、報告とコミュニケーション、推進体制・社内浸透、ビジネスでの貢献、業績
社会価値 (5 指標)	人権の尊重、消費者課題への対応、社会課題への対応、労働時間・休暇、ダイバーシティ
環境価値 (6 指標)	方針、温暖化ガス、消費電力、廃棄物、水資源、気候変動・資源・生物多様性
ガバナンス (1 指標)	ガバナンス (取締役の構成や業績連動報酬の状況など)

報道関係お問い合わせ先

コニカミノルタ株式会社 コーポレートコミュニケーション室 TEL : 03-6250-2100